願（がん）生（しょう）

令和２年１月
第３６号

念仏者の言葉

年をとって自分の力に限界を
知らされるほど　遂に自分を
生かしている世界がいかに
大きいかを知る

私は普段在宅のケアマネジャーとして毎日高齢者の方の自宅へ訪問し、普段の生活の様子を伺っています。定期訪問時に「調子はいかがですか」「最近変わったことは無いですか」と聞くと、「なんもできんがになったちゃ」、「日々できんことが増えていくちゃ」などという言葉が返ってくることがよくあります。これまでは自分の事は自分で出来ていました。しかし年を重ねる事で出来ない事が増えてきており、思うように行かなくなっているという現実に向き合っている事が伺えます。こんなはずではなかったと感じる方も多いようです。よく「人さまに迷惑を掛けないように生きていたい」という言葉を耳にしますが、よく考えると人の世話にならず、迷惑を掛けずに生きていける人が本当にいるのでしょうか。実は生きるという事は迷惑を掛けずには成り立たないのではないでしょうか。今まで自分が生きてこられたという事は、その背景には迷惑を掛け続ける私を黙って許してくれていた無数の存在があったのではないでしょうか。しかし私たちはそんな事を実際に世話になってからしか分かりません。その時初めて自分を生かしてくれていた大きなはたらきに心から感謝する事が出来るのだと思います。私たちはまだまだ元気なうちからこの事に気付く必要があろうかと思います。「いつも私の迷惑を許してくれてありがとう」と感謝しながら生活していきたいものです。

子ども会

今年も恒例の夏の子ども会を開催しました。二十数名の子どもたちがお寺に集まり、一緒に「正信偈」のお勤めを行い、お坊さんの法話を聞きました。今年のお話はトリックアートを使い、物事には一つの見方だけではなく別の見え方があるという事を話し、物事を客観的に見る目を養う事と、自分とは違った物の見方を尊重していくことの大切さをお話しました。出来る限り分かりやすく話したつもりですが、みんな真剣に聞いてくれた事が印象的でした。その後は工作や写経などを行い、子どもたちの楽しそうな声が本堂に響き渡っていた事が印象的です。そして子供たちの待ちに待った流しそうめんでは、お腹いっぱい食べてみんな大満足していました。子ども会が終わってもなかなか帰りたがらずにお寺の境内で遊ぶ子ども達の姿を見ていると、やはり遊びや学びの場としてのお寺の大切さを改めて感じます。子育てをしていると最近は子どもが安心して遊べる場所がとても少なくなっていると感じます。参加した子ども達の親御さんからもこのような子ども会の場がとても貴重だという声が多く聞かれ、今後も頑張って継続していこうと強く思いました。

年忌表

法事は亡き人を偲び、同時に亡き人から大切な事を教えていただく仏縁の場です。今年の年忌表は左記の通りです。地域によって若干違う事がありますが、大体このように勤められています。法事の執行を希望される方はお寺までご連絡ください。

法要名・亡くなった年

一周忌・平成３１年、令和元年（２０１９）
三回忌・平成３０年（２０１８）七回忌・平成２６年（２０１４）
十三回忌・平成２０年（２００８）十七回忌・平成１６年（２００４）
二十三回忌・平成１０年（１９９８）二十七回忌・平成６年（１９９４）
三十三回忌・昭和６３年（１９８８）三十七回忌・昭和５９年（１９８４）
四十三回忌・昭和５３年（１９７８）五十回忌・昭和４６年（１９７１）

お寺を念仏の道場に

先日石川県から能登念仏講という老若男女三十数名の方々が団体参拝で来寺されました。特定のお寺の門徒の集まりではなく、仏教の教えによって繋がった集まりとのことで、今回は早朝に能登を出発して当寺の宝物などを見学し、富山県内の複数の寺院を見学して日帰りで能登へ帰るという日程でした。驚いたのはお参りされた皆さんが自然に大きな声で何度も念仏を称えられ、誰に言われるわけでもなく恩徳讃が歌われるという事でした。参拝者の一人の「私たちはただ観光に来た訳ではないですから」という言葉が表しているように、お参りする為に遠く県外から来寺された事に感動し、私たちのお寺の目指す方向性が改めて明らかになったような気がします。何よりお寺という場は世間の小さな価値観を超えた広い世界を共にいただいていくところです。そのような世界を共に頂いていくことが出来れば自然と口から念仏が出ますし、一層活気のある僧伽としての寺院となっていくでしょう。この辻徳法寺をそんな集まりにしていけたらと感じた一日でした。

お寺で影絵

先日お寺を開放して多方面で活躍されている影絵師のジャック・ランダルさんを招いて、影絵ショーを行いました。当日はお寺の前の三日市商店街で食のイベントである「くろべ食堂」が開催されており、多くの人がお寺に来て下さいました。境内では綿菓子やポップコーンを提供し、代金は黒部市社会福祉協議会を通して赤い羽根共同募金へ全額寄付させていただきました。

影絵ショーでは「赤ずきん」や、お馴染みの「おむすびころりん」をアメリカバージョンにした「オーノー・マイミートボール」等を簡単な英語を交えて披露されました。参加してくれたのは子どもだけではなく、大人の方々も多く見られ、盛り上げ方を熟知しているジャックさんの影絵に引き込まれ、あっという間の一時間でした。

坊守日記

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。昨年の十月下旬に近所の子ども達等に声を掛けて、三本柿の干し柿作りを行いました。今年はお寺の門前の三本柿には実が成らなかった為、市姫通りの三本柿で干し柿を作ることにしました。まず柿を収穫する前に玉垣の中をみんなで掃除しました。いつもは近隣住民の方が善意で掃除をして下さっており、とても感謝しています。収穫時には初めて使用する高枝切りばさみに子ども達は興味深々で、とても楽しく収穫出来た様子です。保護者の方にも手伝ってもらい、二百個以上の柿を剥いていただきました。子ども達は全てが初めての体験だった様子です。今年は天候があまり良くなかったこともあり、カビが生えたものありましたが、後日に参加者全員に配れて安心しました。来年も「柿の木チルドレン」として参加したいとみんなに喜んでもらえ、とても充実した一日でした。

編集後記

先日、大学院時代の恩師が定年で大学を退官されるということで、最終講義と謝恩会に参加する為に京都へ行ってきました。先生は「大悲の誓願」という講題で最終講義をされましたが、私も卒業してから長い月日が経っていますので、大学の教室で講義を受けるという事が新鮮でした。校舎は私が通っていた頃から大きく変わっていましたが、学生が真剣に講義を聞く姿は昔と変わりませんでした。昔は私も一生懸命勉強していたつもりでしたが、現在は日々の生活に忙殺されて学びを止めている自分自身に反省したところです。改めて仏教とは生活全てに関わっている事であり、生活を通して仏教を聞いていく事の大切さを思い出しました。そこで定期的に法話を聞く場を持つために新たな試みとして、春頃よりお寺で定例法座を開いていきたいと思います。詳細は改めてご案内させていただきたいと思います。

真宗大谷派
親鸞聖人聖跡
三本柿の寺
辻徳法寺
〒938－0031
黒部市三日市3214
TEL・FAX（0765）52－0791
メールアドレス
tokuhoji25@yahoo.co.jp
ご意見ご感想もお待ちしております。